

~~~~~  
海外レポート  
~~~~~

## 第43回アジア太平洋公衆衛生学校 コンソーシアム学術集会を終えて

琉球大学医学部保健学科  
外 間 登美子

第43回アジア太平洋公衆衛生学校コンソーシアム学術集会 (Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health: APACPH)は、2011年10月20日から23日まで、韓国ソウル市の延世大学において開催されました (学会長は延世大学学長、Han-Joong Kim教授)。総会および理事会は18日から19日まで延世大学インチョンキャンパスの完成後間もない講堂で開催されました (外間登美子理事長)。

APACPHは公衆衛生大学院の教育、研究、学術交流のためのネットワークとして、1984年にハワイ大学で創設されました。当初は5カ国5大学が会員校でありましたが、現在は24カ国64大学が加盟しています。主な事業は学術集会の開催、機関誌 (APJPH) の発行、サイバー大学の運営、Young Care Net Work事業、メンバー校のコラボレーションセンターおよび国際会議開催の支援等です。琉球大学大学院保健学研究科は、アイランドヘルスコラボレーションセンターを研究科内に設置していません。

ソウル学会のメインテーマは、“Public Health Law and Ethics” “公衆衛生法規と倫理”で韓国内から300題、国外から500題の発表があり盛会でした。基調講演として「公衆衛生法規」2題 (WHOのWPRO ディレクター、Young-soo Shin 博士が「Evolving global health governance and role of academia: 大学の役割」、延世大学のMyongsei Sohn教授が「Globalization of Public Health: 公衆衛生グローバルイゼイション」)と災害管理2題 (Johns Hopkins 大学の Prof Gilbert Bur-nham の「The nature of coming humanitarian emergencies」)と国立保健医療科学院院長の林謙治先生

の“Lessons learned from the Current Tsunami Disaster”)の他に、Disease control (The Measles Elimination Programme in Korea”, Global Health: Keeping the Public Healthy in the 21st Century)と、産業保健と倫理 (Ethical perspective in Occupational Health) の2セクションがありました。シンポジウムは22題、一般演題は18主題分野の発表がありました。琉球大学はアイランドヘルスのシンポジウムを担当したほか、一般演題に教員9名、大学院生8名、研究生1名が参加しました。国別演題数は、インドネシアが最も多く、ついで中国、マレーシア、タイの順となっておりました。日本の順位は国内の公衆衛生学会と期日が重なったため第5位でした。演題数が多かった主題別分野は、ヘルスプロモーションと母子保健でした。

“公衆衛生法規と倫理”がAPACPHの学術集会のメインテーマとして取り上げられたのは今回が初めてです。日本をはじめ、韓国、台湾のように比較的短期間に保健指標の向上した国はそれぞれ公衆衛生関連法規がまず整備されてきた歴史があります。アジア・太平洋地域には経済発展による生活レベルの向上と国民皆保険の実施により、母子保健も格段に改善された国もありますが、まだ保健医療制度の未整備な国も多くあります。本学会ではWHOとの共催で太平洋島嶼国やフィリピンの医療と法律の専門家によるワークショップも開催されました。これらのアジア太平洋地域の国々は国連ミレニアム開発の目標達成に向けて、日本の優れた母子保健を常に参考にしてきました。沖縄県の小児保健は島嶼保健の面から、太平洋地域の島嶼国のモデルとして注目されています。島嶼のもつ脆弱性は、公衆衛生法規だ

けでは克服できない面もあるため、島嶼県の社会資源を最大限に活用して独自の事業を展開してきた沖縄県小児保健協会の活動が高く評価されます。

公衆衛生倫理は私たちの職業上の自己規範でもあります。現在ではほとんどの教育研究機関に倫理委員会が設置されています。機関内で行われるすべての研究に倫理委員会の承認が必要です。沖縄県小児保健協会も倫理委員会を設置しており、協会内の研究審査にあたっています。医の倫理の4原則に加えて公衆衛生倫理にはさらに地域住民の福利が加わります。今回のソウルの学術集会では3シンポジウムで公衆衛生法規と倫理に関する討議が行われました。近年の気候変動や情報化社会における保健、個人情報保護の問題への対応等が“新公衆衛生法規と倫理”の課題です。

次回のAPACPHの総会及学術集会は2012年にスリランカのコロンボで(学会テーマ:「国連開発目標を超えて」)、2013年は中国武漢大学にて開催予定です。これまでAPACPHは教育機関のネットワークとしてメンバーは教育機関に限定してきましたが、2011年から個人会員制が導入されました。詳細はwww.apacph.orgをご参照下さい。

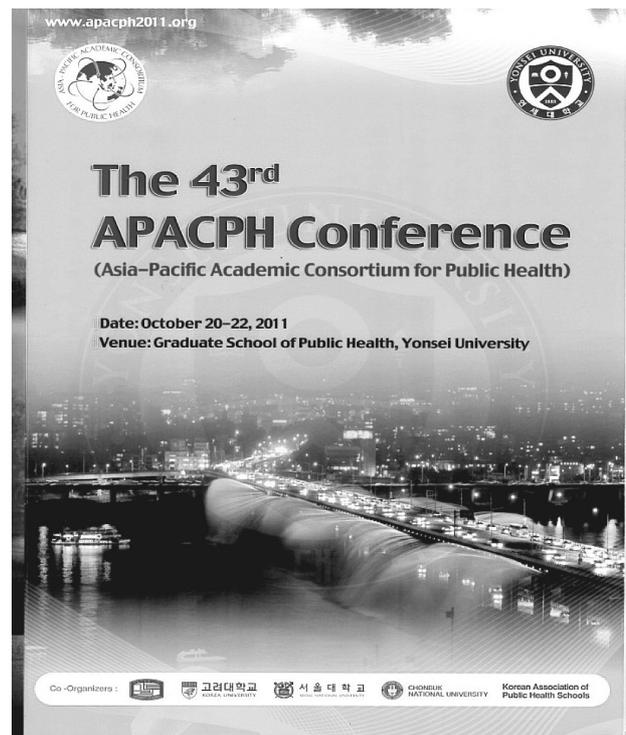


Fig1 : 第43回APACPH学術集会表紙



Fig2 : 第43回APACPH学術集会集合写真